（別紙4）　　平成　30　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 4171600143 | | |
| 法人名 | 医療法人透現 | | |
| 事業所名 | グループホーム白い石 | | |
| 所在地 | 佐賀県杵島郡白石町福吉1808 | | |
| 自己評価作成日 | 平成　30　年11　月　1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年2月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 公益社団法人　佐賀県社会福祉士会 |
| 所在地 | 佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号 |
| 訪問調査日 | 平成　30年　12月　5日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年開設して17年目である。介護老人保健施設と併設しており、西側には障害福祉施設がある。声の聞こえる隣人同士で催し物の度に交流がある。グル―プホームは平屋でありすぐに外に出られる環境で、入居者は散歩や外気浴を楽しむ事が出来ている。食事や入浴は生活の中でも大変楽しみにされている。入浴は毎日実施しており、その日の気分や体調によって決めることが出来る。１人１人にあった個別ケアを行い、言葉づかいや対応の仕方にも配慮している。”お楽しみクッキング″や”買い物支援”の行事も入居者の楽しみの一つになっている。職員は出退勤時一人一人と顔を合わせながらあいさつし、体調把握に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

四方を豊かな平野に囲まれ、遠くには県境の山々を望むことができる明るい環境の中に、母体の老健と並んでそのホームはある。玄関前の中庭には桜の木など四季の花や小さな畑、広い敷地の外周には遊歩道と外へのアクセスが容易である。入居者の整容は行き届き、毎日入浴できる体制を取られている。生花や手作りの飾り物で彩られた共有空間は皆がゆったりと過ごすことができる。勤務歴の長い職員がほとんどで安心できる介護がなされている。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホーム玄関とステーションに理念を掲示している。毎日目につくことで共通理解が出来ている。職員は理念を意識して入居者にサービス提供を行っている。 | 玄関、ステーション内の目につくところに理念が掲示され、管理者から職員へ意識付けるよう声掛けもされている。毎月、定期的に職員が親のように入居者を介護する日を設定する等、親身に介護に取り組まれている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 週3回近所の魚屋が行商に来られており入居者も一緒に食品を見ることが出来ている。顔見知りになり、会話も弾む。隣が障害者の作業所で、秋祭りや運動会、日頃の買い物等で交流がある。また、地域のボランティアの訪問もある。 | 買い物が楽しめる魚の行商、託児所、小中学校の慰問や大正琴、お話会など地域のボランティアの訪問が度々ある。隣接する障害者施設の間は橋がかけられ、交流しやすくなっている。地域の文化祭、運動会の見学もされている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 各種研修受け入れ時や、訪問、見学の折々認知症高齢者の理解を深めてもらっている。また、運営推進会議や家族会に認知症についての話しを取り入れている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 民生委員、区長、行政、家族などの参加により、奇数月に年6回行っている、意見交換、要望等でサービス向上に活かしている。 | 日常生活の様子や行事、ヒヤリハット、事故報告など良いところ、改善すべきところについてパワーポイントを活用して、分かりやすい報告がなされている。職員も交代で参加され、出された意見・要望が、現場に直に伝わる取り組みも行われている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議で町の長寿社会課から参加して頂いており連絡や報告を行っている。介護保険事務所には、事あるごとに足を運び担当者と顔を合わせることにより、協力関係を築いている。 | 町、保険者では担当者とは馴染みの関係で相談や報告は円滑にできている。同町内のグループホーム連絡会や地域ケア会議には管理者、職員ともに参加している。町からの入居相談を受けることもある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎月、身体拘束の委員会を行っており、報告や対応を話し合っている。また職員は研修、勉強会に参加して再度確認行っている。研修の伝達講習を行い、知識を得ることにより、職員全員が周知徹底している。身体拘束は行っていない。 | 現在、身体拘束の対象者はいない。併設の老健と共に、身体拘束委員会をつくり管理者が委員長を務めている。職員に対しても、外部の研修への参加及び伝達をさせ、また、個別に指導するなど周知徹底に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 施設内で定期的（1ヵ月毎）に委員会が行われている。また施設内外での研修にも参加しており学ぶ機会も多い。何気なく行っている声掛けや行為を確認し振り返りをしながら職員間で注意し合える環境作りを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員のほとんどが実際にかかわった経験がない為、グル―プホーム内で勉強会等行っている。また、自己研鑽により理解してもらっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約を交わす際、、運営規定、重要事項説明書など懇切丁寧に説明行い、利用者や家族が疑問に思われる所はその場限りではなく面会等、機会あるたびに説明行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見箱はホームと隣接している老健に各設置している。入居の際に説明しており、家族も理解している。日頃から話しやすい環境作りに心がけている為、相談事は管理者が直接聞く事が多い。その結果については職員で共有している。 | 家族の面会時や、年3回開催される家族会などの直接会える機会に意見を聞いたり、体調の変化などは、その都度、電話を介して、こまめな報告、相談がなされ、意見を聞く機会づくりと、意見の反映に努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月１回職員会議を開きその場で意見を反映させている。また、行事前や、問題が発生した時に随時話し合いを設け意見交換も行っている。 | 管理者は各職員と話しやすい環境づくりに心掛けている。朝礼での伝達、月1回の職員会議、また随時、個別に話し合いを行い、意見交換に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員は年度初めに各個人の目標を提示している。また、資格手当、各種手当等、向上心を持って働ける環境である。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修についても受けるように進めており出来ている。また、資格取得に関しても推進している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 白石町医療介護等関係者連絡会において、研修会、協議会、交流会が行われ、その中で職員同志が学び合う機会が持てている。また、白石町グル―プホーム地域連携協議会を3か月毎に行っており、管理者間で情報交換に努めている。今年度は身体拘束、虐待についての研修が行われ、参加することが出来た。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス導入前に顔を合わせ、入居者の不安や要望を聞かせて頂き、適切な支援の方向性を職員間で話し合い、より良い介護が出来るように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に家族様が困っていることに対してどれくらいの支援が出来るのかを職員で話し合うことでより良い介護の提供が出来るようにしている。入居する上での不安を出来るだけ取り除き本人、家族とのより良い関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族が本人に対して、どのような支援を一番必要と考えているのか、聞き取りることにより、ケアプランを立てる段階で、まずは優先すべき問題を取り入れ支援する様にしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活をしていく上で、出来ることはやっていただき、ひとりひとりの個性に応じた作業を、職員と共に行うことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員だけで本人を支えるのではなく、家族にも出来るだけ協力を得、共に本人を支える関係を築いている。面会時や定期の病院受診にも付き添ってもらいその時に情報交換に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人が大切に思っている家族には、事あるごとに、面会や外出を勧めている。お盆やお正月は、親戚や家族に会いこれまでの関係性の維持を図っている。 | 家族のほか、友人や親戚など面会があっている。面会者には、お茶やお菓子を薦めたり、入居者と一緒に写真を撮るなどして、面会者が訪れ易い環境づくりを気がけている。自宅や学校跡、公園、働いていた場所など、馴染みの地をドライブしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーションの時間には出来るだけ集まってもらい、1日に1回は顔を合わせるようにして関係性を保っている。一人一人の個性や性格を把握し利用者同士が支え合える共同生活が出来るように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入居時よりより良い関係が、保てるよう努力している。その為、退居後も、年賀状やお便りをもらっている。また、わざわざ、ホームに立ち寄り近況報告される方もいる。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中の本人との会話により何を一番に望んでおられるのかの把握に努めている。安心して伝えられるような環境作りにも配慮している。上手く伝えられない方に対しては家族とも話し合っている。 | 昔のことを伺い、話を弾ませて意見を言い易くしたり、気分の落ち込みが見えたら、居室や静かな所で聞き取るなど、意向の把握に努めている。話の聞き取りが難しい方も、家族からの聞き取りなどで意向の把握がなされている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 可能な限り本人からの聞き取り行い、担当ケアマネからの情報やケース記録などで情報を収集したり、家族にこれまでの生活歴や暮らしぶり、病歴、性格などを聞いて把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 環境が変わった事で、自宅とは違った生活になっている為、心身の変化や現状の把握を行い、これまでの生活が維持できるようケアプランにも反映させている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者会議の折、家族の要望も配慮し、できることを中心に考えプランを立てている。1ヶ月毎のモニタリングにて介護計画を確認し、現状にそぐわないプランについては見直し行っている。主治医には照会で対応している。 | モニタリングを毎月実施し、6ヶ月毎で評価している。主治医からは受診時、または主治医意見書を参考にして、ケアプランに反映させている。必要時には随時見直しを行っている。ケアプランは、家族にも分かりやすく説明されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や変化は申し送りや記録等で共有している。誰もがわかりやすいように記録行い、実践や計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その都度、臨機応変に対応しているが、サービスの多機能化には至っていないのが現状である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 隣接している障害者施設で買い物したり、運動会、収穫祭などの催しものに参加したり、地域出入りの魚屋さんと交流したり、併設託児所との交流行事の参加等、入居者が楽しめるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は基本的に家族対応であるが、必要な時は職員が付き添い必要な情報を主治医に提供して適切な医療が受けられるように支援している。また、ケアの面でも必要な事はアドバイスを受けている。 | これまでのかかりつけ医に受診できるようにしている。受診の付き添いは、家族へ依頼しているが、職員も必要に応じて付き添っている。職員が付き添わない時は、情報提供文書を添えることで状態の報告がなされている。かかりつけ医の他、皮膚科、歯科などの専門医受診へも家族の協力も得て、支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は入居者全員と出退勤時あいさつを交わすようにしており、常時の状態を確認している。医療連携を取っている併設看護師は定期で訪問されるため、状態報告し、対応の仕方やアドバイスを受けている。状態変化の時にはすぐに対応出来る体制が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の場合も定期的に状態を観察に行ったり、電話での連絡を取りながら退院後の事について病院側とコンタクトを取っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に看取りは行っていない事を説明している。状態が悪化した時には家族等と今後についての話し合いを行っている。ある程度の道筋をつけて家族の不安解消に努めている。その場合には主治医やホーム職員にも情報提供し、方針を共有している。 | 重度化の際にホームでできることを、入居時に家族に説明されている。状態が変化された時は、その都度、家族と話し合いを行い、方針を共有している。重度化された際は、総合病院など適切な医療機関へ繋いでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 安全対策委員会において、職員全員定期的に応急手当や救急医療の講習を受けて知識を得ている。事故発生時の通報マニュアルは職員全員が把握しており確認もできている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回併設施設と合同で昼夜想定のもとで避難訓練を実施している。地域の消防団にも訓練の時に参加してもらっている。昨今は水害や地震、台風等で被害も懸念されており、避難経路や方法、協力医療施設との連携を確認した。 | 併設の施設と合同で、年2回の火災訓練が行われている。特に起こりやすい災害として、水害を想定しており、運営推進会議や家族会でも話し合われている。自治体指定の避難所以外にも地区の総合病院と提携ができている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 話しかける際には、本人の性格、感情に配慮し誇りやプライバシーを傷つけないよう、言葉がけや会話行っている。不適切な対応行った時にはその都度注意し合っている。 | ベテランの職員が多いため、尊厳・プライバシーへの配慮は周知されている。馴れ馴れしさが行き過ぎた、声掛け等の場面があった場合は、その都度、管理者からの指導や、職員同士でも気づきを共有する体制がとられている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来るだけ、わかりやすく話しかけ、会話の中で本人の思いや希望を表現できるよう環境を整えたり、個別性を重視し選択肢を準備することで自己決定に至る様支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的には本人の体調やその日の気分に寄って1日を過ごしてもらっている。毎日のレクリエーションでは、出来るだけ一緒に楽しい時間を共有することが出来るように声掛け行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時に本人に着たい服を選んでもらったり、化粧品などを購入し、身だしなみの支援している。1か月に1回、訪問での散髪を実施し、希望する方は行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の下ごしらえや、野菜の皮むきなど入居者の能力に応じ、会話を交えながら食事の準備をしている。また畑で育てた野菜でメニューを考えたりと楽しみに繋がっている。年3回の家族会では家族と一緒に食事を楽しむ事が出来ている。 | 食材は、行商の魚屋、スーパーや時々外出を兼ねた買い物支援でも用意されている。各季節に行われる年3回の家族会や、外出レクリエーションでの外食、気候が良ければ玄関脇の中庭での食事などの楽しむ機会を、多く作られている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バランスを考えて食事を提供している。水分は1日の中で必ず補給する時間を決めて実施している。食事については個人に応じた食事形態を提供し、チェック表により食事量を把握して対策を講じている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアについては毎食後、実施している。状態に応じて困難な方には介助行っている。また、入れ歯の管理が難しい方はこちらで預かっている。口腔状態に問題がある場合は本人の希望により、協力歯科に依頼し訪問行ってもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表により全員の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導により汚染も軽減している。 夜間は個々に沿った排泄時間に誘導行っている。 | 排泄チェック表を活用して、排泄パターンの把握はできている。職員はプライバシー、言葉掛けに注意して誘導、見守りを実施している。夜間も個別パターンに合わせ誘導しており、全員トイレを利用されている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便に関しては排泄チェック表にて排便間隔を把握している。排便困難者については、薬だけに頼らず、食事内容、食事量、水分量などに配慮し予防に努めている。便秘が続く場合は主治医に相談している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は毎日実施している。その日の入居者の体調や気分により自己決定できる。毎日実施することでその方の状態に沿った支援ができている。（日曜日は中止しケアの日に当てている。）時間帯は14：30頃より一人づつ誘導しリラックスできるようゆっくり入ってもらっている。入居者はそこで思っていることを話している。 | 体調にもよるが、全員が午後に毎日入浴する支援をされている。本人の希望や気分に合わせて、順番や時間を変えている。菖蒲湯、柚子湯などの季節を楽しむ入浴の機会も作られている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人ひとりの睡眠状況のパターンを把握している。日中、日光浴や軽い運動、午睡を取り入れることにより生活のリズムを整え、入眠しやすい環境を作っている。天気の良い日は布団干しをしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更があった場合、申し送るだけでなくケース記録に最新の薬の説明書を入れ、副作用についての状態の観察を行えるようにしている。また、1回分ずつケースに入れ2人以上で確認行い本人と、薬を照らし合わせ間違いがないよう服薬してもらっている。最後にチェック表に記入行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の能力に応じて、好きなことや得意な事（キーボードを弾く、習字、縫い物、洗濯物干し、たたみ、食事準備、食事のつぎ分け、配膳、他）を日々の生活の中で習慣として行うことが出来ている。できた時の達成感で満足することが出来ている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近所へのドライブ、買い物支援などで外出の機会を得ている。家族会でも祐徳院まで行き、家族の協力の下お参りや買い物などが出来た。高齢化と共に外出の機会も減りつつあるが出来る限り本人の希望に沿った支援を心がけている。 | 馴染みの神社や図書館、公園、物産館、近隣のスーパー、以前住んでいた所などへの車での外出のほか、隣接する福祉施設を含む敷地内外の散歩への支援がなされている。以前されていた個別支援は少なくなってきている。 | 入居者の高齢化もあり、外出できる機会が少なくなっているが、更なる個別の希望に応じた外出支援の充実などに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族様より日常生活の中で自由に使えるお金を預かっている。「買い物支援」では週に1回買い物に出かける時間を作っている。買いたい物を事前に考えることも楽しみの一つとなっている。手持ちのお金を持っていないと不安な方は家族同意の上で少額の金銭を所持して頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 最近は携帯電話を使用している方もいるが、本人の希望や要望があった時、電話を取り次いだり、届いた手紙は手渡している。最近手紙を書く事はほとんどなくなってきたが、ホームで絵手紙などの製作をし、展示して面会時に見てもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 平屋であり、すぐ外に出られる環境になっている。採光が良く明るくて気持ちがよい。玄関やホール棚などに季節の花を飾っている。換気に注意し、空気のよどみがないようにしている。また、各居室、ホール、廊下に温度計、湿度計、空気清浄器を設置し、適切な温度管理を行っている。 | 平野に位置する平屋の建屋で、四方から採光があり明るく、換気も小まめになされ、清々しい共用空間となっている。食事支度の匂いがし、生活感が感じられ、職員手作りの吊るした飾り物や、仕切りを兼ねた飾り棚は、季節感や、楽し気な雰囲気も感じられる。室温管理も適切に行われ、居心地よい空間づくりがなされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホームの随所には椅子をおいており一人でゆっくり外を眺めたり、気の合った仲間同士がくつろいだり出来る。北側は畑や風景を見る場所に適している。天気の良い日は外に椅子を置き、花壇を見たり外気浴をしたり気分転換を図る事が出来ている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は段差を設け畳敷きとなっている。入居者や家族とも相談し、馴染みの品物や使い慣れた家具が持ち込まれ入居者にとって安心出来る居場所になっている。しかし居室内には手すりがない為身体レベルが落ちた時には工夫する必要がある。 | 居室は膝上の高さの広い畳敷きである。それぞれ馴染みの物を持ち込まれ、安心できる雰囲気となっている。広い畳敷きは、身体レベル低下時には生活しにくさも予想されるが、入居者の体調の良さからは、畳の上の体の動きが、姿勢の保持や寝返りなど、身体機能の維持にも役立っている様子が伺える。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 日付がわかる様日めくりカレンダーを設置したり、居室やトイレなど場所がわかりやすいよう工夫している。床は段差がなく歩きやすいため自由に歩行訓練する方もおられる。 | | |